

第 26 回グリーンプランおおた推進会議 議事概要

日 時

令和元年 11 月 1 日（金）13：30～14：00

会 場

消費者生活センター 2階 第六集会室

出席者

【推進会議委員】 島田委員長、池邊副委員長、加藤委員、中村委員、樋口委員、相川委員、牧野委員、原田委員、菅原委員、齋藤委員、久保委員、落合委員（欠席：長谷川委員、龍口委員）

【庁内委員】 都市基盤管理課長（代理）、道路公園課長、公園施設担当課長、産業振興課長（代理）、都市計画課長、建築審査課長、企画調整担当課長
（欠席：環境計画課長、環境対策課長、施設整備課長）

【傍聴者】 1名（区職員1名）

【事務局】 4名

1 開会

2 議事

（1）第 25 回グリーンプランおおた推進会議の振り返り

委員長

- ・ 前回の議事録のまとめに、「関東では、大規模な災害、天災は発生していないが」とあるが、今年の台風 15 号、19 号などの豪雨等により被害が発生してしまった。
- ・ 私自身も被災しており、これからも多大な被害が予想されるため、リスク管理が重要だとより実感した。
- ・ 特にご意見等無いようなので承認させていただき、個人名等を取り除いて区のホームページに掲載する。

（2）グリーンプランおおた平成 30 年度実施事業の進捗状況報告の確認

委員長

- ・ 特に意見が無いようなので承認させていただき、事務局の説明のとおりホームページで公開する。

（3）事業報告

委員

- ・ 洗足池公園の水質調査について、昨年度の調査では、池の深さが 50cm と浅くなっているということだった。
- ・ 今回は生物調査であったが、過去の調査結果と比較して、水質の改善のため最近テレビなどでも行われている「掻い掘り」の実施についてはどのように検討しているか。

都市基盤管理課長（代理）

- ・今年度は長期に渡る雨天時、晴天時の水位の高さを調査している。
- ・下流の洗足流れへの排水状況等の他、湧水の状況や雨水の状況などについても調査を行っている。
- ・実際に使用されている湧水や雨水のデータを基に、「掻い掘り」等についても検討を行っているが、湧水量を考えると洗足池で水を抜くと、元の状態に戻らない可能性が非常に高いということが懸念される。
- ・こういった手法で水質改善を行っていくかについての検討を進めている。

委員

- ・大田区には、公園がたくさんあるが、非常時において公園の価値は非常に重要ではないか。
- ・先日災害時の緊急対応の訓練があり、問題となったのが公園での水の確保の問題である。
- ・小公園等で水が確保されてあれば、応急手当てを行い、その後病院に行くことも検討できる。
- ・防災面での公園の位置づけや水の使用の扱いについて検討が必要ではないかと考える。

都市基盤管理課長（代理）

- ・防災面での課題として、今後検討していくべきことである。
- ・公園内での飲み水の確保は難しい状況であるが、火災時における防火水槽等の確保については、消防との連携を図りながら設置を行っている。
- ・防災の視点で備蓄倉庫を公園内に設け飲料水の確保を行う等について、防災課と協議しながら、今後検討していきたい。

委員

- ・公園ストックの活用について、“いきいき健康公園”と“子育てひろば公園”があるが、楽しみの面から「植物を育てていくこと」もある。
- ・区民農園は幾つかあるが競争率が高くてなかなか利用できない状況である。
- ・身近な小さな公園などで、近隣の方が自前の道具などを持参し、自由に活用できる場所があれば楽しく利用できるのではないかと考える。
- ・健康や子育ての視点だけでなく、高齢者が楽しめるエリアの提供を検討してほしい。

都市基盤管理課長（代理）

- ・大森南圃場を活用して、皆様から樹木をお預かりして、提供する施設を活用しているが、なかなかやり取りがうまくいかない状況であった。
- ・その活用ということで、花を育てる場としての活用を検討している。
- ・杉並区の農業公園などを視察した。「農の風景」等を意識した公園づくりである。
- ・大田区でも大森南圃場一箇所だけではなく、他区の事例等も参考としながら、大田区内でどのような展開を行っていくかについて検討を行っている。

委員長

- ・他の自治体でも、地域の方にある程度管理等をお任せして、畑や花壇を整備するなどの制度もあるので、検討を行って欲しい。

副委員長

- ・最近では地先園芸というのがあり、敷地のすべての面を同じような植栽にする必要はないと思う。
- ・樹木等にもよるが、戸建住宅の建設等で一旦刈り取られた後、以前の樹木を再現することは難しい。
- ・シャッターが下りているような商店の前で、花が付くものをプランターや鉢で育て、この地先園芸と椅子等を設置することによって、憩いの空間となるような事例もある。
- ・街路樹や庭木を活用することが難しくても、地先園芸等を活用して頂いたら良いのではないかと。
- ・URの団地再生なども行っているが、これまでは、団地の4方向で同じ街路樹を設置するような植栽を行っていたが、再生した団地で好評なのは、東西南北全て違う植栽を行い、違う雰囲気を整備している事例である。
- ・南側は日が当たり花壇ができ、北の日影の方には、クリスマスローズなどを植えたら活着力が良かった。
- ・戸建住宅は、クロチクなどを植えて、URの玄関とは思えないような、玄関などを見えないようにした事例などがある。
- ・このように植栽によって、色々な使い方ができるので、幅広い使われ方を検討してほしい。

委員長

- ・実際に検討を行っているのは、これだけではないと思われる。
- ・前回計画を策定してから、法律が改正され、グリーンインフラやSDGs等と共に防災面でのリスク管理を含めた管理運営も議論になっているところである。
- ・次年度の検討において、皆様の考え方やご意見を頂きながら、検討していきたい。
- ・その他に何かご意見等がございましたら、11月15日(金)までに事務局に意見をお寄せ頂きたい。

3 閉会

事務局

- ・次回の第27回推進会議は、1月末を予定している。
- ・この後、バスにて臨海部の見学を行うので、一階に集合して頂きたい。